

□大学院共通科目

科目名	私の研究テーマと研究方法（リレー講義）	2単位
担当教員	吉村 輝彦	
開講形態	ハイブリッド形式	
テーマ	“ Well-being for all の実現” のための研究アプローチ	
科目のねらい	<p><キーワード> Well-being 研究デザイン 研究方法</p> <p><内容の要約></p> <p>日本福祉大学は、“ Well-being for all の実現” を全学部・研究科の共通のテーマとし、福祉、心理、開発、看護、スポーツ、医療、工学などの領域から取り組んでいる。各教員がこのテーマにどのようにアプローチしているかをリレー講義により紹介する。多様な研究の視点や方法を知ることを通して、自らが専攻する領域の専門性を理解するとともに、他領域の知見を自らの研究に取り入れる方法を考えることをねらいとする。</p> <p><学習目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究領域ごとのアプローチの違いと共通点を論じることができる。 ・自らの研究テーマと研究方法を設定することができる。 	
授業の進め方	<p>4月6日(月)</p> <p>6限 18:25-19:55 吉村 輝彦 オリエンテーション</p> <hr/> <p>4月13日(月)</p> <p>6限 18:25-19:55 原田 正樹 地域共生社会の理念と政策ー地域福祉研究の視点からー</p> <p>7限 20:05-21:35 野尻 紀恵 子どもの well-being を実現できる地域づくり</p> <hr/> <p>4月27日(月)</p> <p>6限 18:25-19:55 大谷 京子 反抑圧ソーシャルワーク</p> <p>7限 20:05-21:35 木全 和巳 「パターナリズム」概念のソーシャルワーク実践理論研究の視点からの批判的検討</p> <hr/> <p>5月18日(月)</p> <p>6限 18:25-19:55 斉藤 雅茂 高齢者の社会的孤立の予防・軽減にむけた地域介入の実証・実装研究</p> <p>7限 20:05-21:35 住田 健 スポーツ観戦を通じた地域活性化</p> <hr/> <p>6月1日(月)</p> <p>6限 18:25-19:55 児玉 善郎 しあわせな生活の基盤をなす居住福祉に関する研究</p> <p>7限 20:05-21:35 末盛 慶 日本の社会構造ー社会科学がわたしたちに伝えるメッセージ</p> <hr/> <p>6月15日(月)</p> <p>6限 18:25-19:55 綿 祐二 次世代型の施設運営・人材マネジメント</p> <p>7限 20:05-21:35 砂原 美佳 スウェーデンによる国際協力と評価制度改革</p> <hr/> <p>6月29日(月)</p> <p>6限 18:25-19:55 森 礼子 地域における結核療養者支援ー治療中断を防ぐためにー</p> <p>7限 20:05-21:35 福元 理英 発達障害児の理解と小学校における学習支援</p> <hr/> <p>7月13日(月)</p> <p>6限 18:25-19:55 藤森 克彦 これまでの主要な研究テーマの推移ー問題意識を中心に</p> <p>7限 20:05-21:35 角崎 洋平 借金・貸付からみた貧困と福祉国家</p>	
事前学習の内容 学習上の注意	講義ごとにコメント用紙を提出すること。※nfu.jp 上に、講義日の翌日中に提出。	
テキスト	なし	
成績評価 方法と基準	小レポート 50 点、最終課題レポート 50 点で 100 点満点。60 点以上を合格とします。小レポートは講義ごとに所定の様式で提出いただくものです。最終課題レポートは全 15 講義のうち、少なくとも 2 講義を選んで、それぞれについて（単なる感想でなく）「講義から学んだこと」を所定の用紙に 1 講あたり 1 枚に書いて、全 15 講義終了後に所定の方法で提出してください。	

□大学院共通科目

科目名	研究方法概論 I	1 単位
担当者	末盛 慶	
開講形態	オンデマンド形式 ※【nfu.jp】で配信される講義コンテンツを視聴しながら学ぶ	
テーマ	研究方法の基礎知識と量的方法について理解を深める。	
科目のねらい	<p><キーワード> 研究方法 量的方法 理論 仮説 社会調査 統計学、多変量解析</p> <p><内容の要約></p> <p>本科目では各院生が研究を進めていく上で必要となる研究方法について学び、研究方法の基礎知識と量的方法について理解を深める。具体的には、社会科学のリサーチデザイン、仮説および質問紙の作成方法、調査の実施方法、データ入力の方法、記述統計、推測統計、多変量解析について説明する。</p> <p><学習目標></p> <p>研究方法の基礎知識と量的方法の概要を理解できる。 量的データの収集方法を理解できる。 量的データの分析方法を理解できる。</p>	
授業の進め方	<p>第 1 回 社会科学研究入門：存在論・認識論・リサーチデザイン</p> <p>第 2 回 量的研究の進め方：理論・仮説・分析モデル</p> <p>第 3 回 質問紙の作成とサンプリング：データ入力とその後の管理も含めて</p> <p>第 4 回 統計学の基礎 I－統計学の概要と記述統計</p> <p>第 5 回 統計学の基礎 II－推測統計を学ぶ</p> <p>第 6 回 多変量解析の基礎 I－グループ間の差の検定</p> <p>第 7 回 多変量解析の基礎 II－相関分析</p> <p>第 8 回 多変量解析の基礎 III－回帰分析</p>	
事前学習の内容 学習上の注意	<p>本科目はオンデマンド授業のため、開講している期日までに必ず該当する回を履修すること。一部分でも期限内に受講しないと、単位認定の対象外となる。</p> <p>以下にあげた参考文献のうち、野村康『社会科学の考え方』、高根正昭『創造の方法学』、轟亮・杉野勇・平沢和司『入門・社会調査法』などを読みながら、受講することをお勧めする。</p> <p>なお、社会調査についてわからない事柄があった場合は、一般社団法人社会調査協会『社会調査事典』を、統計学についてわからない事柄があった場合は、大澤光『わかる・使える統計学用語』、Sarah Boslaugh（黒川利明訳）『統計クイックリファレンス（第2版）』などを参照すると良い。</p>	
本科目の 関連科目	私の研究テーマと研究方法（大学院共通科目）、統計解析講座（大学院共通科目）	
テキスト	毎回オリジナルのレジюмеを用いる。	
参考文献	<p>【研究方法論の基礎】</p> <p>高根正昭，1979，『創造の方法学』講談社現代新書</p> <p>野村康，2017，『社会科学の考え方：認識論、リサーチ・デザイン、手法』名古屋大学出版会</p> <p>戸田山和久，2022，『最新版 論文の教室：レポートから卒論まで』NHK ブックス</p> <p>【社会調査】</p> <p>轟亮・杉野勇・平沢和司，2021，『入門・社会調査法（第4版）』法律文化社</p> <p>一般社団法人社会調査協会，2014，『社会調査事典』丸善出版</p> <p>【統計学】</p> <p>向後千春・富永敦子，2007，『統計学がわかる』技術評論社</p> <p>大澤光，2016，『わかる・使える統計学用語』アーク出版</p> <p>Sarah Boslaugh（黒川利明訳），2015，『統計クイックリファレンス（第2版）』オーム社</p> <p>【多変量解析】</p> <p>栗原伸一・丸山敦史，2017，『統計学図鑑』オーム社</p> <p>米川和雄・山崎貞政，2010，『超初心者向け SPSS 統計解析マニュアル』北大路書房</p> <p>村瀬 洋一・高田 洋他，2007，『SPSS による多変量解析』オーム社</p> <p>浦上昌則・脇田貴文.2020.『心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方（改訂版）』東京図書</p>	
成績評価 方法と基準	期末レポート（50点）、授業内容に関する受講生のコメント・毎回提出（50点）により評価し、総合評価 60 点以上を合格とする。	

□大学院共通科目

科目名	研究方法概論Ⅱ	1 単位
担当者	末盛 慶	
開講形態	オンデマンド形式 ※【nfu.jp】で配信される講義コンテンツを視聴しながら学ぶ	
テーマ	研究方法の基礎知識と質的方法について理解を深める。	
科目のねらい	<p><キーワード> 質的方法 研究課題、質的データの収集、質的データの分析、質的研究の評価 <内容の要約> 本科目では各院生が研究を進めていく上で必要となる研究方法について学び、研究方法の基礎知識と質的方法について理解を深める。具体的には、質的方法の概要、研究課題の設定、質的データの収集方法、質的データの分析法の概要を解説する。 <学習目標> 研究方法の基礎知識と質的方法の概要を理解できる。 質的データの収集方法を理解できる。 質的データの分析方法を理解できる。</p>	
授業の進め方	第1回 社会科学の認識論と質的研究：存在論・認識論・リサーチデザイン 第2回 質的研究の進め方：研究課題を設定するまでのプロセス 第3回 質的調査法Ⅰー個別インタビューとグループインタビュー 第4回 質的調査法Ⅱー観察法とエスノグラフィー 第5回 質的調査法Ⅲー多様な質的データの収集法 第6回 質的データ分析法の基礎Ⅰーナラティブ型の分析 第7回 質的データ分析法の基礎Ⅱーコーディング型の分析 第8回 質的データ分析法の基礎Ⅲーディスコース型の分析	
事前学習の内容 学習上の注意	<p>本科目はオンデマンド授業のため、開講している期日までに必ず該当する回を履修すること。一部分でも期限内に受講しないと、単位認定の対象外となる。</p> <p>以下の参考文献のうち、中島洋『初学者のための質的研究 26 の教え』、工藤保則・寺岡伸悟・宮垣元『質的調査の方法』を読みながら受講することをお勧めする。Pranee Liamputtong『質的研究法:その理論と方法：健康・社会科学分野における展開と展望』も良書である。【質的方法の調査法および分析法】にあげられている本を読むと、個々の質的調査法や分析法に関する理解が深まる。</p>	
本科目の 関連科目	私の研究テーマと研究方法（大学院共通科目）、統計解析講座（大学院共通科目）	
テキスト	毎回オリジナルのレジюмеを用いる。	
参考文献	<p>【研究の基礎】 高根正昭，1979，『創造の方法学』講談社現代新書 野村康，2017，『社会科学の考え方：認識論、リサーチ・デザイン、手法』名古屋大学出版会 上野千鶴子，2018，『情報生産者になる』筑摩書房</p> <p>【質的方法の概要】 中島洋，2015，『初学者のための質的研究 26 の教え』医学書院 グレグ美鈴・麻原きよみ他．2016．『よくわかる質的研究の進め方・まとめ方：看護研究のエキスパートをめざして』医歯薬出版 Pranee Liamputtong（木原雅子・木原正博訳），2022，『質的研究法:その理論と方法：健康・社会科学分野における展開と展望』メディカルサイエンスインターナショナル プシュカラ・ブラサド（箕浦康子監訳），2018，『質的研究のための理論入門』ナカニシヤ出版 ハイディ・レヴィット（能智正博他訳），2023，『心理学における質的研究の論文作法』新曜社</p> <p>【質的方法の調査法および分析法】 スタイナー・クヴァール（能地正博・徳田治子訳），2016，『質的研究のための「インター・ビュー」』新曜社 ティム・ラプリー（大橋靖史訳），2018，『会話分析・ディスコース分析・ドキュメント分析』新曜社 マイケル・アングロシーノ（柴山真琴訳），2016，『質的研究のためのエスノグラフィーと観察』新曜社 グラハム・R・ギブズ（砂上史子・一柳智紀・一柳梢訳），2017，『質的データの分析』新曜社 戈木クレイグヒル滋子.2021.『グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いた研究ハンドブック』新曜社 木下 康仁．2020．『定本 M-GTA :実践の理論化をめざす質的研究方法論』医学書院</p>	
成績評価 方法と基準	期末レポート（50点）、授業内容に関する受講生のコメント・毎回提出（50点）により評価し、総合評価60点以上を合格とする。	

□大学院共通科目

科目名	研究方法概論Ⅲ	1 単位
担当者	末盛 慶	
開講形態	オンデマンド形式 ※【nfu.jp】で配信される講義コンテンツを視聴しながら学ぶ	
テーマ	応用的な多変量解析の手法、SPSS の使い方、量的論文の書き方について理解を深める。	
科目のねらい	<p><キーワード> 量的方法、多変量解析、SPSS、量的論文の書き方</p> <p><内容の要約> 研究方法概論Ⅰでは量的研究法の基礎を取り上げたが、本科目では量的研究法の応用的な内容について学んでいく。具体的には、多変量解析の中でよく用いられる多様な回帰分析に加え、因子分析、パネルデータ分析、マルチレベル分析などを取り上げる。実験研究や臨床研究についても取り上げる。講義の後半では、統計解析ソフト SPSS の使い方、量的論文の書き方等についてふれていく。</p> <p><学習目標></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 量的研究法における応用的な内容を理解できる。 ② 統計解析ソフト SPSS の使い方について理解できる。 ③ 量的論文のまとめ方と注意点について理解できる。 	
授業の進め方	第1回 多様な回帰分析ーロジスティック回帰分析・多項ロジスティック回帰分析・順序回帰分析 第2回 因子分析 第3回 共分散構造分析・パス解析 第4回 実験研究・臨床研究 第5回 パネルデータ分析 第6回 マルチレベル分析 第7回 統計解析ソフト SPSS の使い方 第8回 量的論文の書き方ー結果の示し方と解釈の仕方ー	
事前学習の内容 学習上の注意	本科目はオンデマンド授業のため、開講している期日までに必ず該当する回を履修すること。一部分でも期限内に受講しないと、単位認定の対象外となる。	
本科目の 関連科目	私の研究テーマと研究方法（大学院共通科目）、統計解析講座（大学院共通科目）、研究方法概論Ⅰ（大学院共通科目）	
テキスト	毎回オリジナルのレジュメを用いる。	
参考文献	<p>【統計学と多変量解析に関する基礎】 栗原伸一・丸山敦史, 2017, 『統計学図鑑』オーム社</p> <p>【多変量解析・RやSPSSの使い方】 畑農鋭矢・水落正明, 2022, 『データ分析をマスターする12のレッスン(新版)』有斐閣 神田善伸, 2024, 『初心者でもすぐにできるフリー統計ソフトEZR(Easy R)で誰でも簡単統計解析(改訂第2版)』南江堂 川端一光・岩間徳兼・鈴木雅之, 2018, 『Rによる多変量解析入門』オーム社 米川和雄・山崎貞政, 2010, 『超初心者向けSPSS統計解析マニュアル』北大路書房 三輪 哲・林雄亮, 2014, 『SPSSによる応用多変量解析』オーム社 明石法子・岸田拓也・花塚優貴・天野成昭, 2025, 『多変量解析のためのSPSS操作マニュアル: 解析手順から結果・解釈の書き方まで』ナカニシヤ出版</p> <p>【パネルデータ分析・マルチレベル分析】 筒井淳也, 水落正明, 保田時男, 2016, 『パネルデータの調査と分析・入門』ナカニシヤ出版 沖本竜義, 2010, 『経済・ファイナンスデータの計量時系列分析』朝倉書店 安藤 正人, 2011, 『マルチレベルモデル入門』ナカニシヤ出版 清水裕士, 2014, 『個人と集団のマルチレベル分析』ナカニシヤ出版</p> <p>【量的論文の書き方ー結果の示し方や解釈の注意点】 江崎貴裕, 2020, 『分析者のためのデータ解釈学入門: データの本質をとらえる技術』ソシム アメリカ心理学会(APA), 2023, 『APA論文作成マニュアル(第3版)』医学書院 牧本清子・山川みやえ, 2020, 『よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版: 研究手法別のチェックシートで学ぶ』日本看護協会出版会 浦上昌則・脇田貴文, 2020, 『心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方(改訂版)』東京図書</p>	
成績評価 方法と基準	期末レポート(50点)、授業内容に関する受講生のコメント・毎回提出(50点)により評価し、総合評価60点以上を合格とする。	

□大学院共通科目

科目名	研究方法概論Ⅳ	1 単位
担当者	末盛 慶	
開講形態	オンデマンド形式 ※【nfu.jp】で配信される講義コンテンツを視聴しながら学ぶ	
テーマ	質的研究における多様な手法と質的論文の書き方について理解を深める。	
科目のねらい	<p><キーワード> 質的研究、事例分析、アクションリサーチ、混合研究法、質的論文の書き方 <内容の要約> 研究方法概論Ⅱでは質的研究法の基礎を取り上げたが、本科目では質的研究における多様な手法について学んでいく。具体的には、事例研究、アクションリサーチ、混合研究法などを取り上げる。加えて多様な質的調査法および分析法についても説明する。最後に質的論文の書き方や注意点にふれる。</p> <p><学習目標> 質的研究における多様な調査法を理解できる。 質的研究における多様な分析法を理解できる。 質的論文のまとめ方と注意点について理解できる。</p>	
授業の進め方	<p>第1回 多様な質的調査法と分析法Ⅰ 第2回 多様な質的調査法と分析法Ⅱ 第3回 多様な質的調査法と分析法Ⅲ 第4回 事例研究 第5回 アクションリサーチ 第6回 混合研究法Ⅰ（基礎編） 第7回 混合研究法Ⅱ（応用編） 第8回 質的論文の書き方と注意点</p>	
事前学習の内容 学習上の注意	<p>本科目はオンデマンド授業のため、開講している期日までに必ず該当する回を履修すること。一部分でも期限内に受講しないと、単位認定の対象外となる。</p>	
本科目の 関連科目	私の研究テーマと研究方法（大学院共通科目）、研究方法概論Ⅱ（大学院共通科目）	
テキスト	毎回オリジナルのレジュメを用いる。	
参考文献	<p>【質的研究の概説書】 ジョン・クレスウェル, ジョアンナ・クレスウェル, 2022, 『質的研究をはじめのための30の基礎スキル』新曜社 プランニー・リアンプトン, 2023, 『質的研究法』メディカルサイエンスインターナショナル</p> <p>【事例研究】 ロバート K.イン, 2011, 『新装版 ケース・スタディの方法(第2版)』千倉書房 アレキサンダー・ジョージ・アンドリュース・ベネット, 2013, 『社会科学のケース・スタディ』勁草書房</p> <p>【アクションリサーチ】 グリーンウッド, DJ, レヴィン, M, 2023, 『アクションリサーチ入門』新曜社 デイビッド・コフラン, テレサ・ブラニック, 2021, 『実践アクションリサーチ』碩学舎</p> <p>【混合研究法】 クレスウェル・ジョン, 2017, 『早わかり混合研究法』ナカニシヤ出版 チャールズ・テッドリー, アッバス・タシャコリ, 2017, 『混合研究法の基礎』西村書店</p> <p>【多様な質的データ分析法】 戈木クレイグヒル滋子, 2016, 『グラウンデッド・セオリー・アプローチ(改訂版)』新曜社 佐藤郁哉, 2008, 『質的データ分析法—原理・方法・実践』新曜社 安田裕子・滑田明暢・福田茉莉・サトウタツヤ, 2016, 『TEA理論編』新曜社 大谷尚, 2019, 『質的研究の考え方: 研究方法論から SCAT による分析まで』名古屋大学出版会 ブラウン・V, クラーク, V, 2025, 『テーマ分析: 実践ガイド』新曜社 ティム・ラプリー, 2018, 『会話分析・ディスコース分析・ドキュメント分析』新曜社 ブノワ・リウー, チャールズ C. レイガン, 2016, 『質的比較分析(QCA)と関連手法入門』晃洋書房</p> <p>【質的論文のまとめ方と注意点】 ハイディ・レヴィット, 2023, 『心理学における質的研究の論文作法』新曜社 太田 裕子, 2019, 『はじめて「質的研究」を「書く」あなたへ』東京図書</p>	
成績評価 方法と基準	期末レポート(50点)、授業内容に関する受講生のコメント・毎回提出(50点)により評価し、総合評価60点以上を合格とする。	

□大学院共通科目

科目名	先端老年社会科学講座 (国立長寿医療研究センター連携科目)	1 単位
担当者	島田 裕之 (客員教員)、片山 脩 (非常勤教員)、宇田 和晃 (非常勤教員) 下田 隆大 (非常勤教員)、川上 歩花 (非常勤教員)、張 姝 (非常勤教員)	
開講形態	ハイブリッド形式	
テーマ	高齢者や老化の問題を学際的な視点から学ぶ	
科目のねらい	<p><キーワード> 健康増進、疾病・障害予防、コホート研究、認知症</p> <p><内容の要約> 老年社会科学は、高齢者や慢性疾患患者の保健・医療・福祉に関する諸問題に対し、医学、心理学、社会学、福祉学、栄養学など様々な学問における理論や方法論を用いて学際的な視点から研究を行う学問である。本講義では、6名の担当者から基礎知識だけでなく、老年社会科学に関する最新の知見を紹介する。</p> <p><学習目標> 老年社会科学の基礎的な知識と最新の知見を理解し、個々に問題意識や関心を持ち、現在の立場でできる行動計画を立案することができる。</p>	
授業の進め方	<p>第01回 高齢化の疾病・障害予防についての動向 (島田)</p> <p>第02回 高齢者の認知症予防 (片山)</p> <p>第03回 高齢者の介護保険サービスをめぐる現状とエビデンス (1) (宇田)</p> <p>第04回 高齢者の介護保険サービスをめぐる現状とエビデンス (2) (宇田)</p> <p>第05回 高齢者の身体活動 (下田)</p> <p>第06回 高齢期の栄養・口腔機能 (川上)</p> <p>第07回 高齢期の公衆栄養：認知症予防食生活 (張)</p> <p>第08回 高齢者の内在的能力 (張)</p>	
事前学習の内容・学習上の注意	各回における講義テーマについて事前に文献等を調べて事前学習をすること。	
本科目の関連科目	福祉と疾病、リハビリテーション特論Ⅰ、医療・福祉マネジメント (以上、医療・福祉マネジメント研究科開講科目) 高齢者福祉論特講 (社会福祉学専攻 (通信) 開講科目)	
テキスト	指定なし	
参考文献	指定なし	
成績評価方法と基準	各講義日 (2限分) の小レポート 40 点、最終レポート 60 点で 100 点満点。 総合評価により 60 点以上を合格とする。	

□大学院共通科目

科目名	統計解析講座 (国立長寿医療研究センター連携科目)	1 単位
担当者	川野 伶緒 (非常勤教員)	
開講形態	対面形式	
テーマ	研究における実践的問題を解決するため、交絡を中心とした因果推論の基礎と統計学的手法を理解し、研究計画およびデータ分析に応用する。	
科目のねらい	<p><キーワード> 統計学、生物統計学、臨床疫学、多変量解析、研究計画</p> <p><内容の要約> 本講義では、研究における実践的な問題を解決するための統計学の理論と応用を学ぶ。統計学には膨大な蓄積があり、その実践は多岐にわたるため、本講義ですべてを扱うことはできない。そこで研究を遂行する上で避けて通れない「交絡」を中心に、データ解析の方法論について理解を深める。具体的には、交絡の性質とその影響、交絡の調整方法、回帰分析による解析方法とその解釈を取り上げる。また、これらを受得するため、RおよびRStudioという無料で利用できる統計解析ソフトウェアを用いたサンプルデータによる演習を行う。さらに、統計学の知識はデータ解析だけでなく研究計画段階から求められることから、研究仮説の立て方や適切な研究計画の構築についても紹介する。これらを通じて、実践的な統計的知識を身につけ、自身の研究に活用することを目指す。</p> <p><学習目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 取り組んでいる研究の研究仮説や研究計画を適切に説明できる。 2. 交絡を理解し、回帰分析を利用した交絡調整ができる。 3. 研究者が知っておくべき統計学に関する知識を正しく理解し、自身の研究に役立てることができる。 	
授業の進め方	<p>第 1 回 研究仮説の立て方／レポート課題 1</p> <p>第 2 回 R および RStudio を用いたデータハンドリングと図表作成</p> <p>第 3 回 因果推論の基礎</p> <p>第 4 回 交絡と DAG の理解／レポート課題 2</p> <p>第 5 回 因果推論のための回帰分析 1</p> <p>第 6 回 因果推論のための回帰分析 2</p> <p>第 7 回 レポートを踏まえた口頭試問と課題の検討</p> <p>第 8 回 レポートを踏まえた口頭試問と課題の検討</p>	
事前学習の内容 学習上の注意	<ul style="list-style-type: none"> • 演習では統計ソフトを使用するため、ノートパソコンの持参は必須である。 • 本講義は、大学学部レベルの統計学基礎知識を前提に実践的内容を扱うが、履修制限は設けない。ただし、一部では前提知識を仮定した説明があり、一時的に「そういうもの」と理解してもらう場面がある。講義を最大限に活用したい場合は、参考文献に示した図書による事前学習を推奨する。 • 事前学習としては、まず『基礎医学統計学』が適している。医学部学生向けに平易に書かれており、最低限の知識を広く把握できるため、本講義の準備としては十分である。より深く学びたい場合は『基礎統計学Ⅰ 統計学入門』を参照するとよい。 • R および RStudio の事前学習には、ウェブ資料が有用である。まずは『私たちの R (https://www.jaysong.net/RBook/)』(可視化の章まで)の利用を推奨する。さらに学びたい場合は『疫学のためのRハンドブック (https://epirhandbook.com/jp/index.jp.html)』(単変量・多変量回帰まで)が参考になる。 	
本科目の関連科目	研究方法概論Ⅰ(大学院共通科目)、研究方法概論Ⅱ(大学院共通科目)	
テキスト	指定なし	
参考文献	<p>基礎医学統計学 改訂第7版. 南江堂. (ISBN: 978-4-524-24149-1)</p> <p>基礎統計学Ⅰ 統計学入門. 東京大学出版会 (ISBN: 978-4-13-042065-5)</p>	
成績評価方法と基準	<p>成績評価は、レポート課題1および2の内容(各30点)と、それらを踏まえた口頭試問(40点)を合算した総合点によって行う。口頭試問では、提出済みレポートを基盤として、研究目的や因果構造など研究計画に関わる主要な論点について対話形式で検討する。評価は、計画の妥当性や論理性に加え、質疑応答を通じた改善の姿勢を含めて総合的に判断する。なお、口頭試問は単なる試験ではなく、研究計画を磨くための対話の場として位置づける。</p>	

□大学院共通科目

科目名	多職種連携実践Ⅰ（リレー講義）	2単位
担当者	水谷なおみ（社会福祉士、介護福祉士）	
テーマ	福祉の実践事例から多職種連携・地域連携について学ぶ	
開講形態	ハイブリッド形式	
科目のねらい	<p><キーワード> 多職種連携 多業種連携 地域連携 重層的支援 地域包括ケア 多職種連携教育</p> <p><内容の要約> 地域における各種事例の問題解決や福祉資源・地域づくりの多職種連携・地域連携の実践報告から「専門家の協働」「地域の連携」「有限な資源で最大限の成果を生み出す『やりくり』」について考え、多職種連携の課題と方法を学びます。 各領域の実践家による実践報告、学生との討議などから総合的に学ぶ教育方法をとります。 土曜日午後に開講し、平日多忙な人や遠隔地の人も参加しやすい配慮をします。 また、広く市民も受講できるよう一般公開します。</p> <p><学習目標> ・多様なニーズへの対応、専門性の向上、地域づくりに必要な「多職種連携」について学び、実践力を高めることができる。 ・自分自身の問題意識、関心にひきつけ、他の実践事例から有効な実践・思考フレームを構築して応用できる。</p>	
授業の 進め方 3限 13:25-14:55 4限 15:05-16:35 5限 16:45-18:15	5月16日（土）	
	3限 実践に活かす多職種連携教育-ケースメソッドの有効性-	宇佐美千鶴（社会福祉士）
	4限 地域包括ケアにおける社会福祉士・ケアマネの役割	近藤芳江（認定社会福祉士）
	5限 ピアスーパービジョン 討論と担当教員のまとめ	水谷なおみ
	6月27日（土）	
	3限 多職種連携の本質的課題解決に向けて-法人内連携（医療・介護）・リハビリネットワーク・行政連携の実践-	小久保 充（理学療法士）
	4限 多職種で支える意思決定支援-訪問看護の現場から-	渡邊和子（看護師）
5限 ピアスーパービジョン 討論と担当教員のまとめ	水谷なおみ	
9月12日（土）		
3限 司法福祉実践における多職種連携	嶽崎貴史（社会福祉士）	
4限 個人開業による対人援助職の実践と多職種連携	原田 亘（社会福祉士、公認心理師）	
5限 ピアスーパービジョン 討論と担当教員のまとめ	水谷なおみ	
10月31日（土）		
3限 障害者福祉における、多職種・他機関との連携について -現場からのレポート	谷川 陽美（社会福祉士）	
4限 災害時に福祉支援と多職種連携	伊藤 隆博（社会福祉士）	
5限 ピアスーパービジョン 討論と担当教員のまとめ	水谷なおみ	
12月12日（土）		
3限 地域の中の居場所づくり -地域をゆるくつなぐ-	火口弥生（社会福祉士）	
4限 認知症とともに地域で生きる -当事者視点から再構築する多職種連携-	井上 卓（介護福祉士）	
5限 ピアスーパービジョン 討論と担当教員のまとめ	水谷なおみ	
事前学習の内容学習上の注意	指定した参考文献は事前に読んでおくといいです。	
本科目の関連科目	多職種連携概論（医療・福祉マネジメント研究科開講科目）	
テキスト	テキストは使用しません。必要に応じて資料を配布します。	
参考文献	多職種連携の技術—地域生活支援のための理論と実践 野中猛 中央法規 多職種連携を高める チームマネジメントの知識とスキル 篠田道子 医学書院 専門職種連携教育プログラム 柴崎智美・米岡裕美・古谷牧子他 ミネルヴァ書房	
成績評価方法と基準	毎回の小レポート 40点、最終レポート 60点で 100点満点。総合評価により 60点以上を合格とします。	

□大学院共通科目

科目名	多職種連携実践Ⅱ（申請に基づく単位認定科目）	2単位																																																						
概要	<p>この科目は単位認定申請科目です。本学が学内・学外者向けに開催している講座・セミナーのうち、認定する企画（医療・福祉分野の高度専門職業人に必要とされる知識やスキルの獲得を目的としたもの）を所定点数受講し、所定のレポートを提出することにより、単位認定申請が可能です。</p>																																																							
単位認定対象企画および要件	<p><単位認定対象企画> 本科目は年度当初に履修登録をおこなう必要はありません。 各企画への申し込みは各自でおこなってください。企画により参加費が必要です。</p> <table border="1" data-bbox="384 483 1394 1487"> <tr> <th colspan="3">日本福祉大学大学院特別公開セミナー（大学院主催）</th> </tr> <tr> <td>第1講：6月14日（日）</td> <td>第2講：7月12日（日）</td> <td>第3講：9月13日（日）</td> </tr> <tr> <td>第4講：10月4日（日）</td> <td>第5講：11月15日（日）</td> <td>第6講：12月13日（日）</td> </tr> <tr> <td colspan="3">*開催時間：13:15～16:30（全講で同一）</td> </tr> <tr> <td colspan="3">*開催形式：ハイフレックス （名古屋キャンパスでの対面またはオンラインを参加者が選択）</td> </tr> <tr> <td colspan="3">※参加点数：1講につき5点（全講終了後、12月末に修了証を発行）</td> </tr> <tr> <th colspan="3">質的研究会主催研修会（日本福祉大学質的研究会主催）</th> </tr> <tr> <td colspan="3">A [質的研究事始め] 5月30日（土）10:00～16:00</td> </tr> <tr> <td colspan="3">B [夏季大学院公開ゼミナール分科会] 7月26日（日）10:00～16:00 ⇒単位認定を希望する場合、必ず質的研究会が主催する分科会をご選択ください</td> </tr> <tr> <td colspan="3">C [質的研究継続研修] 10月～11月に2日間開催予定 <両日参加></td> </tr> <tr> <td colspan="3">※参加点数：A,B,C各6点</td> </tr> <tr> <td colspan="3">※開催内容が確定次第案内します。</td> </tr> <tr> <th colspan="3">夏季大学院公開ゼミナール（日本福祉大学福祉社会開発研究所主催）</th> </tr> <tr> <td colspan="3">[夏季大学院公開ゼミナール]</td> </tr> <tr> <td colspan="3">全体会：7月25日（土）10:00～16:00</td> </tr> <tr> <td colspan="3">分科会：7月26日（日）*開催時間は分科会により異なる。</td> </tr> <tr> <td colspan="3">※参加点数：全体会6点、分科会6点</td> </tr> <tr> <td colspan="3">※開催内容が確定次第案内します。</td> </tr> </table> <p><単位認定申請基準> 参加点数合計（所定点数）：30点以上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その他の対象企画については、2026年度後期開始時（9月末）までに随時案内します。（2026年12月末までに開催されるものが対象です） ・単位認定申請の結果は後期成績発表時に通知します。 ・原則として1講（1日程）90分あたり2点とみなし、各企画の参加点数を算出しています。 		日本福祉大学大学院特別公開セミナー（大学院主催）			第1講：6月14日（日）	第2講：7月12日（日）	第3講：9月13日（日）	第4講：10月4日（日）	第5講：11月15日（日）	第6講：12月13日（日）	*開催時間：13:15～16:30（全講で同一）			*開催形式：ハイフレックス （名古屋キャンパスでの対面またはオンラインを参加者が選択）			※参加点数：1講につき5点（全講終了後、12月末に修了証を発行）			質的研究会主催研修会（日本福祉大学質的研究会主催）			A [質的研究事始め] 5月30日（土）10:00～16:00			B [夏季大学院公開ゼミナール分科会] 7月26日（日）10:00～16:00 ⇒単位認定を希望する場合、必ず質的研究会が主催する分科会をご選択ください			C [質的研究継続研修] 10月～11月に2日間開催予定 <両日参加>			※参加点数：A,B,C各6点			※開催内容が確定次第案内します。			夏季大学院公開ゼミナール（日本福祉大学福祉社会開発研究所主催）			[夏季大学院公開ゼミナール]			全体会：7月25日（土）10:00～16:00			分科会：7月26日（日）*開催時間は分科会により異なる。			※参加点数：全体会6点、分科会6点			※開催内容が確定次第案内します。		
	日本福祉大学大学院特別公開セミナー（大学院主催）																																																							
第1講：6月14日（日）	第2講：7月12日（日）	第3講：9月13日（日）																																																						
第4講：10月4日（日）	第5講：11月15日（日）	第6講：12月13日（日）																																																						
*開催時間：13:15～16:30（全講で同一）																																																								
*開催形式：ハイフレックス （名古屋キャンパスでの対面またはオンラインを参加者が選択）																																																								
※参加点数：1講につき5点（全講終了後、12月末に修了証を発行）																																																								
質的研究会主催研修会（日本福祉大学質的研究会主催）																																																								
A [質的研究事始め] 5月30日（土）10:00～16:00																																																								
B [夏季大学院公開ゼミナール分科会] 7月26日（日）10:00～16:00 ⇒単位認定を希望する場合、必ず質的研究会が主催する分科会をご選択ください																																																								
C [質的研究継続研修] 10月～11月に2日間開催予定 <両日参加>																																																								
※参加点数：A,B,C各6点																																																								
※開催内容が確定次第案内します。																																																								
夏季大学院公開ゼミナール（日本福祉大学福祉社会開発研究所主催）																																																								
[夏季大学院公開ゼミナール]																																																								
全体会：7月25日（土）10:00～16:00																																																								
分科会：7月26日（日）*開催時間は分科会により異なる。																																																								
※参加点数：全体会6点、分科会6点																																																								
※開催内容が確定次第案内します。																																																								
単位認定申請方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 提出書類：所定の申請書、受講企画すべての修了証およびレポート 2. 提出期間：2027年1月4日（月）～2027年1月15日（金）【最終日必着】 3. 提出方法：nfujpの所定提出BOXまたは郵送による提出 ※修了証は、nfujp提出の場合はデータ提出（スキャンデータ、画像データ等）、郵送の場合は原本、コピーしたもののいずれかを郵送ください（原本の場合は返却しませんので予めご承知おきください）。																																																							
成績評価	修了証の提出と、提出されたレポートが「合格」と判定されると単位認定されます。レポートのテーマは以下の2点。1講（1日程）ごとに、A4版（40字×40行程度）1枚以内とします。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 受講した企画で新たに学んだ要点 2. 受講した企画で学んだ中での多職種連携への視点 																																																							